

活動を振り返って

大石明子

公民館の主催事業「地域再発見教室」で「周西地域の西と東を歩く」に参加してから一〇年になります。地元の方々に昔の話を聞くにつけ、あれこれと想像が膨らみ開発前の周西に興味を持ち知りたくなりました。

神社やお寺の祭礼や行事にはその都度写真を撮りに出かけた。初めて「湯の花神事」や「茅の輪くぐり」を見てカルチャーショックを受けた。路傍に立つ石碑にも歴史があり、その時代を生きた人々の思いが伝わって来る。

高齢化が進み地域に伝わる風習は、時代の波に流されつつあり「何とか、若い人たちに引き継いでもらいたい」と篤い思いで語ってくれた老婦人の言葉が重かった。仕来りや方言などを理解するのが難しく、何度も同じことをお聞きした。お忙しいなか、いつも温かく丁寧に教えてくださった地元の皆様方には大変感謝しております。

八幡製鐵が進出して早や五〇年「周西は大切なわが故郷」です。今だからこそ、見たり聞いたりしたことを記録に残し、次の世代に伝えていく活動に大きな意義を感じています。

大島良美

名古屋から君津市に来て一〇年余りになりますが、周西地域の歴史などわからない事ばかりでした。周西マップクラブに入会して活動する中で、神社やお寺の歴史などが解り、写真撮影や神社やお寺の話を聞いて少しずつですが理解できて楽しくなりました。

また、年号についても明治以前の事は全く無知でしたが、三、四百年前の墓石や力石などの歴史を知り、大変勉強になりました。

木村晴美

君津在住一五年の後半を「周西マップクラブ」の活動に参加し『周西・三舟花紀行』作りの際には大変貴重な経験をさせて頂き、知識豊かなマップの皆様と次の目標に向け進み始めた矢先

に九州に戻るようになりました。

小糸川の四季折々の変化を楽しみながら通った周西公民館、撮影に向かった先々、何よりも「周西マップクラブ」の皆様のこと私の宝物です。その皆様が一致団結、地道な努力を重ねられ遂に『周西地域誌』が発刊されます事を心よりお慶び申し上げますと共にご尊敬申し上げております。「周西マップクラブ」の皆様の益々のご健康とご活躍をお祈りいたします。

倉内加代子

私は、約三年前から『周西地域誌』作成に携わりました。この間、いろいろなことがありました。最初は十二名でのスタートでしたが、それぞれの都合で退会があり、現在のメンバーは九名。作成課程においては意見の相違なので、そうそうには一筋縄ではいかないうことも多々ありました。

振り返れば、真夏日や真冬日の中の過酷な画像撮影、それも一度ならず二度三度と現場に訪れたこと、字名の

由来、神社や祭事のこと、最初は何の興味もなかった金石文の解説に、はるかなるいにしえの世に思いを馳せたこと等が思い起こされます。そして見事メンバーの底力が発揮され、又メンバーの一員としてこの冊子作りに携われたことに感謝です。尚且つ後世に引き繋がれていくであろう『周西地域誌』が完成したことを誇りに思っています。

佐々木千恵子

昔から家庭で行われていた風習や行事、年の始めの「年神様」からはじまり季節ごとに沢山の慣わしがあり、それぞれの神様が存在している事に驚きと人間の純真さに感心致しました。

この地域にも、過去には色々な災害が起こり不便な生活を繰り返していたが、現在では環境が整備され台風や大雨では大きな被害もなく、温暖な気候でとても住みやすい地域です。そんな周西地域ですばらしい皆様とめぐり会え活動に参加できた事に感謝致します。

鳥居正寛

活動を振り返ってマップクラブの存在に改めて感動した。パソコンサークルでお世話になっていてマップクラブを立ち上げるので参加してと誘っていただきました。私はパソコンの腕前は全くダメだけど何かお役に立つ事はと考えました。会員の中で地元は自分だけです。何か調査をする時とかお話を聴く時など接点になろうと思いました。私の家は人見神社の社家で神社に奉仕している関係で知人が多くそれが役立ちました。新日鐵が進出して以来生活が変わって行き、それに伴い歳時記も変わり消滅しつつあります。そこで現在も行われているもの、行われなくなつたものを後世に伝えていかななくてはと考えてフィールド調査等、力が入りました。楽しく出来た事、サークルの皆さんとの素晴らしい絆が出来た事、そして、視点を変えると視界が開けることを実感させられた活動でした。

林世地子

地域のマップを作ろう。周西の歴史

を知ろう。それを冊子にまとめようとは始まった周西マップクラブの活動。歴史は一番苦手な分野ながら会長を始め、皆と一緒に「歩いて、見て、聞いて、調べる」を実践。真夏の暑さの中、木枯らし吹く寒さの中、神社、寺、地域を歩き、写真を撮り、難しく読めない金石文が一字でも読めた時の喜び、地域の方々への聞き取りには、快く教えてくださるその人柄に暖かさを感じながら、会員全員で一步一步進んできました。この四年間の貴重な経験は私の財産となりました。

姫野重信

周西地域の外周凡そ一三km、歩いて三時間、その中に数多くの歴史的素材がギッシリ詰まっていることを、今回の活動で知ることができた。

古代から現代までの地形や人的素材等など、また表現的に描写出来ない古代文明の技術的な面を含めるとその数は計り知れない。それを知りえたのは先人たちが残してくれた、綿密な資料

の御蔭である。

我々の活動が未来を支える地域の若者たちへ繋ぐ歴史のかけ橋になればと考え活動した。

福山友子

私が一番印象に残ったのは 人見神社の祭礼で一日の行事の流れを二・三年にかけて見学出来た事です。社宅で子供神輿を手伝った時はどんな祭りなのか把握していませんでした。それがこのような機会に恵まれ、馬が主役で流鏑馬とは違う神馬登山、神馬奉納と初めて見る人見神社祭礼行事、君津市の無形民俗文化財という事も知りました。サークルに出会い教えていただき勉強になりました。

元岡陸視

儒学者佐藤一斎『言志晩録(三学戒)』に「少くして学べば、則ち壮にして為すこと有り。壮にして学べば、則ち老いて衰えず。老いて学べば、則ち死して朽ちず」の言葉がある。私は、少くして学ばず、壮にして学ばず、老にし

て学ぶが故に労多しの感否めず。厚かましくも浅学非才の身で地域誌編纂に取り組んだ。よき仲間巡り合い、地域を歩いて歴史を知り、文化を見て人情の機微に触れ、先人の悠久の営みを辿り、支援者・協力者にも恵まれ、地域交流で励ましの言葉を頂いた。

「……、学んで道を知らざらば学ばざるに同じ。知って行わざれば知らずに同じ」。残された日々、非才を絞り、老いてなを尽くすべく、朽ちるまで人生模索したいと愚考している。

服部喜光

『周西地域誌』発刊おめでとうございます。有言実行、常日頃より皆様の活動を見聞し、努力されている姿に感服して居りました。地域の歴史・文化を後世に伝えるに余りある成果を残されたことに心より敬意を表します。今後、さらに君津市の文化事業の発展に尽力されんことをご祈念します。

編集後記

地域誌作成の構想を意識したのは、平成一四年の旧君津中央公民館主催事業「パソコン初級講座」の頃だった。

前年「e-Japan戦略」がIT国家戦略として策定され市内各公民館にパソコンが配置された。これは市民に大きな反響を呼び技術習得が一大ブームとなった。翌年、主催事業に参加したメンバーにITを活用して地域の歴史を調べ記録に残す活動を提案したが「時期尚早」で賛同者はいなかった。

平成二四年『周西・三舟花紀行』発刊は私達にとって最大のエポックだった。これが契機で芽生えた個々人の意識改革と精力的な姿勢に翻弄された挙句、背中を押されればなしで気苦勞多き仕儀となったが、楽しかった。

苦節一四年、長いようで短い年月であつた。「歳歳年年人不同」の如く、時は移り、人変わったが「人間万事塞翁が馬」。面舵一杯！次の目標地点を目指し「ヨーソロー」。

周西地域誌

平成二十八年十月

発行

編集・発行者

周西マップクラブ

千葉県君津市人見4-8-31

電話 0439-52-6537

印刷

有限会社 京葉印刷

千葉県木更津市江川359-2

電話 0438-41-8625 (代)

FAX 0438-41-8723

